

告示	番号	50	慢性心疾患
	疾病名	二次孔型心房中隔欠損症	

二次孔型心房中隔欠損症

にじこうがたしんぼうちゅうかくけっそんしょう

概念・定義

心房中隔の欠損を認める。欠損は心房中隔卵円窩を少なくとも一部含んでいる。一般的に小児期は無症状で経過することが多く、心雑音や心電図異常などで健診時に発見されることが多い。しかし加齢とともに心不全症状、不整脈や肺高血圧の症状が出現する。カテーテル治療か手術を行う。肺体血流比が1.5以上か、心エコーで右室の容量負荷を認めるとき、治療適応となる。治療後は、おおむね予後は良好である。肺高血圧が強いと、予後が不良である。手術前に心房細動を認めることがある。手術後遠隔期に洞機能不全や心房性不整脈を認めることがある。

症状

一般的に小児期は無症状で経過することが多く、心雑音や心電図異常などで健診時に発見されることが多い。しかし加齢とともに心不全症状、不整脈や肺高血圧の症状が出現する。まれに小児期に、心不全や肺高血

圧を合併することがある。感染性心内膜炎のリスクは低く、予防内服は不要である。

理学所見としては、相対的肺動脈弁狭窄による収縮期駆出性雑音を、胸骨左縁第二肋間に聴取する。II音の固定性分裂を認める。相対的三尖弁狭窄による拡張期ランブルを、胸骨左縁第3から第4肋間に聴取する

治療

カテーテル治療か手術を行う。肺体血流比が1.5以上か、心エコーで右室の容量負荷を認めるとき、治療適応となる。術前に肺高血圧が高度の時は、慎重に治療適応を決める。カテーテル治療は、Amplatzer 閉鎖栓を用いる。閉鎖栓がはさむ十分な辺縁があることが必要である

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_42_52.html